

一橋大学社会科学古典資料センター創立 40 周年記念
平成 30 年度文化的・学術的資料の保存国際シンポジウム

西洋貴重書を 守る、活かす



大学が収蔵する貴重書を
研究だけでなく学習にも活かす

特別講演

「アダム・スミス文庫にわけ入って」
水田洋博士

「水田文庫を特徴づける資料群」
中井えり子氏（元名古屋大学附属図書館）

基調講演

※同時通訳あり

”Acquisition, Collaboration, Teaching:
The Role of the Beinecke Library in Driving Research”
Dr. Raymond Clemens

パネルディスカッション

「教育学習に古典資料を活かす」



水田 洋 博士

日本学士院会員
名古屋大学名誉教授 写真提供：名古屋大学



Dr. Raymond Clemens

Yale University
Beinecke Rare Book & Manuscript Library

2018. 12/7 Fri.

13:30-17:00 13:00 受付開始

会場：一橋大学佐野書院

東京都国立市中 2-17-35

JR 中央線国立駅南口より徒歩 15 分

JR 南武線谷保駅北口より徒歩 20 分

または国立駅行バス「一橋大学」下車



参加申込 参加無料・定員 40 名（先着順）

<http://chssl.lib.hit-u.ac.jp/education/lecture.html>

同時開催

一橋大学社会科学古典資料センター・保存修復工房見学会
10:00-11:00 先着 15 名 要申込

お問合せ

一橋大学学術情報課古典資料係

MAIL: koten@lib.hit-u.ac.jp TEL: 042-580-8252



一橋大学社会科学古典資料センター創立 40 周年記念
平成 30 年度文化的・学術的資料の保存国際シンポジウム

西洋貴重書を守る、活かす

貴重書を収蔵する大学は多数ありますが、大学図書館は果たしてそれらの貴重書を「研究」だけでなく「学習」にも十分活かしているのでしょうか。閲覧するのはごく一部の研究者のみで、学生や市民は展示ケース越しにたまたま眺めることができるだけ、そんな館が多いのではないのでしょうか。

このシンポジウムでは、学生や市民の「学習」のために貴重書を積極的に活用している大学図書館の事例を紹介し、大学図書館に求められる新しい貴重書サービスのあり方を探ります。

※ プログラム

- 13:00 – 開場・受付開始
13:30 – 13:45 開会挨拶（中野聡一橋大学副学長）
13:45 – 14:25 特別講演
「アダム・スミス文庫にわけ入って」
水田洋氏（日本学士院会員，名古屋大学名誉教授）
「水田文庫を特徴づける資料群」
中井えり子氏（元名古屋大学附属図書館）
14:25 – 15:25 基調講演 ※同時通訳あり
「Acquisition, Collaboration, Teaching:
The Role of the Beinecke Library in Driving Research」
Raymond Clemens 氏
(Yale 大学 Beinecke Rare Book & Manuscript Library)
15:25 – 15:40 休憩
15:40 – 16:40 パネルディスカッション「教育学習に古典資料を活かす」
馬場幸栄氏（一橋大学社会科学古典資料センター）
倉持 隆氏（慶應義塾大学三田メディアセンター）
田中麻巳氏（立正大学古書資料館）
16:40 – 16:50 「西洋古典資料の保存に関する拠点およびネットワーク構築事業」
概要報告
16:50 – 17:00 閉会挨拶
17:00 閉会

※ 同時開催

- ①一橋大学社会科学古典資料センター・保存修復工房見学会（10:00 – 11:00）
※先着 15 名，要事前申込
- ②平成 30 年度一橋大学附属図書館企画展示（社会科学古典資料センター設立 40 周年記念）「プロジェクト F：世紀のコレクションを獲得せよ！～フランクリン文庫入手からセンター設立まで～」（10:00 – 17:00 於：図書館展示室（時計台棟 1 階））
※入場無料